

## 社会調査Ⅰ SA

15318

担当者名 / Instructor 高橋 正人

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

「社会調査Ⅰ」「社会調査Ⅱ」「社会調査Ⅲ」は、社会調査Ⅰ課程の中核科目であり、20人を上限としたクラスを編成して調査実習室で調査実習を伴う授業を行う。この科目の内容は大別すると3部からなる。第1部は社会調査入門であり、調査の意義や目的、調査のルールや調査倫理を学ぶ。第2部では質的調査の実習として、面接による聞き取り調査(例:身近な高齢者を対象とするなど)を行い、聞き取り記録を作成する。第3部では量的調査の実習として調査票調査(例:学生を対象とするなど)を行い、レポートをまとめる。この科目は「社会調査Ⅰ」「社会調査Ⅱ」への導入であり基礎である。

## 到達目標 / Attainment Objectives

社会調査によって資料やデータを収集し、分析しうる形にまで整理していく具体的な方法と、そこで必要となる考え方などについて習得することを目的とする。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

この科目は、社会調査Ⅰ課程に登録し、「社会調査Ⅰ」「社会調査Ⅱ」など一連の社会調査Ⅰ科目とあわせて受講することが条件である。また「社会統計学」や「社会調査論」などの関連科目を早期に受講することが望ましい。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	第1回 社会調査Ⅰ課程全体のガイダンス	
2	第2回 社会調査の背景、社会調査とは	
3	第3回 社会調査のモラル、調査倫理	
4	第4回 調査目的と調査方法、調査の企画と設計	
5	第5回 調査票の作成 その1	
6	第6回 調査票の作成 その2	
7	第7回 調査対象者の選定、サンプリングとは	
8	第8回 社会調査の実施方法	
9	第9回 調査票の回収とコーディング	
10	第10回 データ入力とデータクリーニング	
11	第11回 質的調査の方法	
12	第12回 質的調査の整理の仕方、フィールドノートの作成	
13	第13回 データの整理と分析 その1	
14	第14回 データの整理と分析 その2	
15	第15回 調査レポートの作成、まとめ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

社会調査Ⅰルームを効果的に利用しながら作業を進めることが期待される。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	
日常点・その他	50 %	

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
社会調査へのアプローチ 第2版	大谷 信介・木下 栄二・後藤 範章・小松 洋・永野 武 / ミネルヴァ書房 / 4623041042 /

上記の他にも、社会調査Ⅰの先輩たちが作成した調査報告書がテキストである。それらをよく読んで長所を学び、欠点を補うにはどうするかを考えてほしい。

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

## 社会調査士I SB § 社会調査士I SB

15319

担当者名 / Instructor 平本 毅

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

「社会調査士I」「社会調査士II」「社会調査士III」は、社会調査士課程の中核科目であり、20人を上限としたクラスを編成して調査実習室で調査実習を伴う授業を行う。この科目の内容は大別すると3部からなる。第1部は社会調査入門であり、調査の意義や目的、調査のルールや調査倫理を学ぶ。第2部では質的調査の実習として、面接による聞き取り調査(例:身近な高齢者を対象とするなど)を行い、聞き取り記録を作成する。第3部では量的調査の実習として調査票調査(例:学生を対象とするなど)を行い、レポートをまとめる。この科目は「社会調査士I」「社会調査士II」への導入であり基礎である。

## 到達目標 / Attainment Objectives

社会調査によって資料やデータを収集し、分析しうる形にまで整理していく具体的な方法と、そこで必要となる考え方などについて習得することを目的とする。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

この科目は、社会調査士課程に登録し、「社会調査士I」「社会調査士II」など一連の社会調査士科目とあわせて受講することが条件である。また「社会統計学」や「社会調査論」などの関連科目を早期に受講することが望ましい。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	第1回 社会調査士課程全体のガイダンス	
2	第2回 社会調査の背景、社会調査とは	
3	第3回 社会調査のモラル、調査倫理	
4	第4回 調査目的と調査方法、調査の企画と設計	
5	第5回 調査票の作成 その1	
6	第6回 調査票の作成 その2	
7	第7回 調査対象者の選定、サンプリングとは	
8	第8回 社会調査の実施方法	
9	第9回 調査票の回収とコーディング	
10	第10回 データ入力とデータクリーニング	
11	第11回 質的調査の方法	
12	第12回 質的調査の整理の仕方、フィールドノートの作成	
13	第13回 データの整理と分析 その1	
14	第14回 データの整理と分析 その2	
15	第15回 調査レポートの作成、まとめ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

社会調査士ルームを効果的に利用しながら作業を進めることが期待される。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	
日常点・その他	50 %	

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
社会調査へのアプローチ 第2版	大谷 信介・木下 栄二・後藤 範章・小松 洋・永野 武 / ミネルヴァ書房 / 4623041042 /

上記の他にも、社会調査士の先輩たちが作成した調査報告書がテキストである。それらをよく読んで長所を学び、欠点を補うにはどうするかを考えてほしい。

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

## 社会調査Ⅰ SC

15320

担当者名 / Instructor 中川 勝雄

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

「社会調査Ⅰ」「社会調査Ⅱ」「社会調査Ⅲ」は、社会調査Ⅰ課程の中核科目であり、20人を上限としたクラスを編成して調査実習室で調査実習を伴う授業を行う。この科目の内容は大別すると3部からなる。第1部は社会調査入門であり、調査の意義や目的、調査のルールや調査倫理を学ぶ、第2部では質的調査の実習として、面接による聞き取り調査(例:身近な高齢者を対象とするなど)を行い、聞き取り記録を作成する。第3部では量的調査の実習として調査票調査(例:学生を対象とするなど)を行い、レポートをまとめる。この科目は「社会調査Ⅰ」「社会調査Ⅱ」への導入であり基礎である。

## 到達目標 / Attainment Objectives

社会調査によって資料やデータを収集し、分析しうる形にまで整理していく具体的な方法と、そこで必要となる考え方などについて習得することを目的とする。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

この科目は、社会調査Ⅰ課程に登録し、「社会調査Ⅰ」「社会調査Ⅱ」など一連の社会調査Ⅰ科目とあわせて受講することが条件である。また「社会統計学」や「社会調査論」などの関連科目を早期に受講することが望ましい。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	第1回 社会調査Ⅰ課程全体のガイダンス	
2	第2回 社会調査の背景、社会調査とは	
3	第3回 社会調査のモラル、調査倫理	
4	第4回 調査目的と調査方法、調査の企画と設計	
5	第5回 調査票の作成 その1	
6	第6回 調査票の作成 その2	
7	第7回 調査対象者の選定、サンプリングとは	
8	第8回 社会調査の実施方法	
9	第9回 調査票の回収とコーディング	
10	第10回 データ入力とデータクリーニング	
11	第11回 質的調査の方法	
12	第12回 質的調査の整理の仕方、フィールドノートの作成	
13	第13回 データの整理と分析 その1	
14	第14回 データの整理と分析 その2	
15	第15回 調査レポートの作成、まとめ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

社会調査Ⅰルームを効果的に利用しながら作業を進めることが期待される。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	
日常点・その他	50 %	

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
社会調査へのアプローチ 第2版	大谷 信介・木下 栄二・後藤 範章・小松 洋・永野 武 / ミネルヴァ書房 / 4623041042 /

上記の他にも、社会調査Ⅰの先輩たちが作成した調査報告書がテキストである。それらをよく読んで長所を学び、欠点を補うにはどうするかを考えてほしい。

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

## 社会調査士I SD § 社会調査士I SD

15321

担当者名 / Instructor 原尻 英樹

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

「社会調査士I」「社会調査士II」「社会調査士III」は、社会調査士課程の中核科目であり、20人を上限としたクラスを編成して調査実習室で調査実習を伴う授業を行う。この科目の内容は大別すると3部からなる。第1部は社会調査入門であり、調査の意義や目的、調査のルールや調査倫理を学ぶ。第2部では質的調査の実習として、面接による聞き取り調査(例:身近な高齢者を対象とするなど)を行い、聞き取り記録を作成する。第3部では量的調査の実習として調査票調査(例:学生を対象とするなど)を行い、レポートをまとめる。この科目は「社会調査士I」「社会調査士II」への導入であり基礎である。

## 到達目標 / Attainment Objectives

社会調査によって資料やデータを収集し、分析しうる形にまで整理していく具体的な方法と、そこで必要となる考え方などについて習得することを目的とする。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

この科目は、社会調査士課程に登録し、「社会調査士I」「社会調査士II」など一連の社会調査士科目とあわせて受講することが条件である。また「社会統計学」や「社会調査論」などの関連科目を早期に受講することが望ましい。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	第1回 社会調査士課程全体のガイダンス	
2	第2回 社会調査の背景、社会調査とは	
3	第3回 社会調査のモラル、調査倫理	
4	第4回 調査目的と調査方法、調査の企画と設計	
5	第5回 調査票の作成 その1	
6	第6回 調査票の作成 その2	
7	第7回 調査対象者の選定、サンプリングとは	
8	第8回 社会調査の実施方法	
9	第9回 調査票の回収とコーディング	
10	第10回 データ入力とデータクリーニング	
11	第11回 質的調査の方法	
12	第12回 質的調査の整理の仕方、フィールドノートの作成	
13	第13回 データの整理と分析 その1	
14	第14回 データの整理と分析 その2	
15	第15回 調査レポートの作成、まとめ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

社会調査士ルームを効果的に利用しながら作業を進めることが期待される。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	
日常点・その他	50 %	

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
社会調査へのアプローチ 第2版	大谷 信介・木下 栄二・後藤 範章・小松 洋・永野 武 / ミネルヴァ書房 / 4623041042 /

上記の他にも、社会調査士の先輩たちが作成した調査報告書がテキストである。それらをよく読んで長所を学び、欠点を補うにはどうするかを考えてほしい。

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

## 社会調査士II 1

12944

担当者名 / Instructor 辻 勝次

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

「社会調査士」および「社会調査士」は社会調査士課程の中核をなす科目であり、フィールド実習を中心に、連続して通年で開講する。この科目は2回生の前期夏休みまでの間に調査主題、フィールド、仮説構築、調査票作成、サンプリングと配布、回収から準備的なデータ入力・解析までを行う。これに続いて2回生後期には本格的なデータ入力・解析から報告書の執筆完成へと進んでいく。

担当者は家族、地域、労働を総合的に観察することのできる調査主題とフィールドについて腹案を持っているが、重要なことなので、開講時に受講生に直接説明することにした。

## 到達目標 / Attainment Objectives

社会学の社会調査の主題は日常の人びとの生活であり、暮らしである。ある人は家族の一員であり、家族は収入源としての職業、労働活動を行っている。同時にその家族は地域社会に根ざした地域生活を送っている。家族、地域、労働という3つの領域が重なることで人びとの暮らしが成り立っている。その様相を調査を通して把握し、人間と社会を理解することがこの科目の目的である。その途上で社会調査のスキルが自ずから身につくことになろう。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

この科目は、社会調査士課程に登録し「社会調査士」を受講済みであることが条件である。また「社会統計学」や「社会調査論」などの関連科目をひととおり受講済みであることが望ましい。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	第1回 調査主題と調査フィールドの検討 その1	
2	第2回 調査主題と調査フィールドの検討 その2	
3	第3回 問題設定・それに関する一般的な事前学習、先行研究・資料・情報類の収集 その1	
4	第4回 問題設定・それに関する一般的な事前学習、先行研究・資料・情報類の収集 その2	
5	第5回 班別に作業仮説の検討 その1	
6	第6回 班別に作業仮説の検討 その2	
7	第7回 予備調査 現地視察、インフォーマント聞き取り、調査内容の具体化等 その1	
8	第8回 予備調査 現地視察 インフォーマント聞き取り、調査内容の具体化等 その2	
9	第9回 仮説の構築 その1	
10	第10回 仮説の構築 その2	
11	第11回 調査準備 質問項目の確認、サンプリング、調査依頼等 その1	
12	第12回 調査準備 質問項目の確認、サンプリング、調査依頼等 その2	
13	第13回 調査票(案)作成等 その1	
14	第14回 調査票(案)作成等 その2	
15	第15回 調査票(案)作成等 その3	

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

社会調査士ルームを効果的に利用しながら作業を進めることが期待される。また必要に応じて調査フィールドにおもむき情報収集を行う。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	フィールドでのインフォーマントからの聞き取り、仮説構築、質問紙作成など、授業の進行に応じてさまざまな文書を作成する必要があるが、それらが取っ手いえばレポートであり評価の対象物である。
日常点・その他	50 %	小テストなどは行わない。広義の調査活動全般が日常点としての評価対象となる。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

社会調査士の先輩たちが作成した調査報告書がテキストである。それらをよく読んで長所を学び、欠点を補うにはどうするかを考えてほしい。

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

担当者名 / Instructor 石倉 康次

単位数 / Credit 2

**授業の概要 / Course Outline**

「社会調査士」および「社会調査士」は社会調査士課程の中核をなす科目であり、フィールド実習を中心に、連続して通年で開講する。この科目は2回生の前期夏休みまでの間に調査主題、フィールド、仮説構築、調査票作成、サンプリングと配布、回収から準備的なデータ入力・解析までを行う。これに続いて2回生後期には本格的なデータ入力・解析から報告書の執筆完成へと進んでいく。

担当者は家族、地域、労働を総合的に観察することのできる調査主題とフィールドについて腹案を持っているが、重要なことなので、開講時に受講生に直接説明することにした。

**到達目標 / Attainment Objectives**

社会学の社会調査の主題は日常の人びとの生活であり、暮らしである。ある人は家族の一員であり、家族は収入源としての職業、労働活動を行っている。同時にその家族は地域社会に根ざした地域生活を送っている。家族、地域、労働という3つの領域が重なることで人びとの暮らしが成り立っている。その様相を調査を通して把握し、人間と社会を理解することがこの科目の目的である。その途上で社会調査のスキルが自ずから身につくことになろう。

**履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study**

この科目は、社会調査士課程に登録し「社会調査士」を受講済みであることが条件である。また「社会統計学」や「社会調査論」などの関連科目をひととおり受講済みであることが望ましい。

**授業スケジュール / Course Schedule**

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	第1回 調査主題と調査フィールドの検討 その1	
2	第2回 調査主題と調査フィールドの検討 その2	
3	第3回 問題設定・それに関する一般的な事前学習、先行研究・資料・情報類の収集 その1	
4	第4回 問題設定・それに関する一般的な事前学習、先行研究・資料・情報類の収集 その2	
5	第5回 班別に作業仮説の検討 その1	
6	第6回 班別に作業仮説の検討 その2	
7	第7回 予備調査 現地視察、インフォーマント聞き取り、調査内容の具体化等 その1	
8	第8回 予備調査 現地視察 インフォーマント聞き取り、調査内容の具体化等 その2	
9	第9回 仮説の構築 その1	
10	第10回 仮説の構築 その2	
11	第11回 調査準備 質問項目の確認、サンプリング、調査依頼等 その1	
12	第12回 調査準備 質問項目の確認、サンプリング、調査依頼等 その2	
13	第13回 調査票(案)作成等 その1	
14	第14回 調査票(案)作成等 その2	
15	第15回 調査票(案)作成等 その3	

**(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study****(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method**

社会調査士ルームを効果的に利用しながら作業を進めることが期待される。また必要に応じて調査フィールドにおもむき情報収集を行う。

**成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation**

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	フィールドでのインフォーマントからの聞き取り、仮説構築、質問紙作成など、授業の進行に応じてさまざまな文書を作成する必要があるが、それらが取っ手いえばレポートであり評価の対象物である。
日常点・その他	50 %	小テストなどは行わない。広義の調査活動全般が日常点としての評価対象となる。

**受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods****教科書 / Textbooks**

社会調査士の先輩たちが作成した調査報告書がテキストである。それらをよく読んで長所を学び、欠点を補うにはどうするかを考えてほしい。

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

## 社会調査士II 3

13015

担当者名 / Instructor 筒井 淳也

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

「社会調査士」および「社会調査士」は社会調査士課程の中核をなす科目であり、フィールド実習を中心に、連続して通年で開講する。この科目は2回生の前期夏休みまでの間に調査主題、フィールド、仮説構築、調査票作成、サンプリングと配布、回収から準備的なデータ入力・解析までを行う。これに続いて2回生後期には本格的なデータ入力・解析から報告書の執筆完成へと進んでいく。

担当者は家族、地域、労働を総合的に観察することのできる調査主題とフィールドについて腹案を持っているが、重要なことなので、開講時に受講生に直接説明することにした。

## 到達目標 / Attainment Objectives

社会学の社会調査の主題は日常の人びとの生活であり、暮らしである。ある人は家族の一員であり、家族は収入源としての職業、労働活動を行っている。同時にその家族は地域社会に根ざした地域生活を送っている。家族、地域、労働という3つの領域が重なることで人びとの暮らしが成り立っている。その様相を調査を通して把握し、人間と社会を理解することがこの科目の目的である。その途上で社会調査のスキルが自ずから身につくことになろう。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

この科目は、社会調査士課程に登録し「社会調査士」を受講済みであることが条件である。また「社会統計学」や「社会調査論」などの関連科目をひととおり受講済みであることが望ましい。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	第1回 調査主題と調査フィールドの検討 その1	
2	第2回 調査主題と調査フィールドの検討 その2	
3	第3回 問題設定・それに関する一般的な事前学習、先行研究・資料・情報類の収集 その1	
4	第4回 問題設定・それに関する一般的な事前学習、先行研究・資料・情報類の収集 その2	
5	第5回 班別に作業仮説の検討 その1	
6	第6回 班別に作業仮説の検討 その2	
7	第7回 予備調査 現地視察、インフォーマント聞き取り、調査内容の具体化等 その1	
8	第8回 予備調査 現地視察 インフォーマント聞き取り、調査内容の具体化等 その2	
9	第9回 仮説の構築 その1	
10	第10回 仮説の構築 その2	
11	第11回 調査準備 質問項目の確認、サンプリング、調査依頼等 その1	
12	第12回 調査準備 質問項目の確認、サンプリング、調査依頼等 その2	
13	第13回 調査票(案)作成等 その1	
14	第14回 調査票(案)作成等 その2	
15	第15回 調査票(案)作成等 その3	

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

社会調査士ルームを効果的に利用しながら作業を進めることが期待される。また必要に応じて調査フィールドにおもむき情報収集を行う。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	フィールドでのインフォーマントからの聞き取り、仮説構築、質問紙作成など、授業の進行に応じてさまざまな文書を作成する必要があるが、それらが取っ手いえばレポートであり評価の対象物である。
日常点・その他	50 %	小テストなどは行わない。広義の調査活動全般が日常点としての評価対象となる。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

社会調査士の先輩たちが作成した調査報告書がテキストである。それらをよく読んで長所を学び、欠点を補うにはどうするかを考えてほしい。

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

## 社会調査士II 4

13014

担当者名 / Instructor 斎藤 真緒

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

「社会調査士」および「社会調査士」は社会調査士課程の中核をなす科目であり、フィールド実習を中心に、連続して通年で開講する。この科目は2回生の前期夏休みまでの間に調査主題、フィールド、仮説構築、調査票作成、サンプリングと配布、回収から準備的なデータ入力・解析までを行う。これに続いて2回生後期には本格的なデータ入力・解析から報告書の執筆完成へと進んでいく。

担当者は家族、地域、労働を総合的に観察することのできる調査主題とフィールドについて腹案を持っているが、重要なことなので、開講時に受講生に直接説明することにした。

## 到達目標 / Attainment Objectives

社会学の社会調査の主題は日常の人びとの生活であり、暮らしである。ある人は家族の一員であり、家族は収入源としての職業、労働活動を行っている。同時にその家族は地域社会に根ざした地域生活を送っている。家族、地域、労働という3つの領域が重なることで人びとの暮らしが成り立っている。その様相を調査を通して把握し、人間と社会を理解することがこの科目の目的である。その途上で社会調査のスキルが自ずから身につくことになろう。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

この科目は、社会調査士課程に登録し「社会調査士」を受講済みであることが条件である。また「社会統計学」や「社会調査論」などの関連科目をひととおり受講済みであることが望ましい。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	第1回 調査主題と調査フィールドの検討 その1	
2	第2回 調査主題と調査フィールドの検討 その2	
3	第3回 問題設定・それに関する一般的な事前学習、先行研究・資料・情報類の収集 その1	
4	第4回 問題設定・それに関する一般的な事前学習、先行研究・資料・情報類の収集 その2	
5	第5回 班別に作業仮説の検討 その1	
6	第6回 班別に作業仮説の検討 その2	
7	第7回 予備調査 現地視察、インフォーマント聞き取り、調査内容の具体化等 その1	
8	第8回 予備調査 現地視察 インフォーマント聞き取り、調査内容の具体化等 その2	
9	第9回 仮説の構築 その1	
10	第10回 仮説の構築 その2	
11	第11回 調査準備 質問項目の確認、サンプリング、調査依頼等 その1	
12	第12回 調査準備 質問項目の確認、サンプリング、調査依頼等 その2	
13	第13回 調査票(案)作成等 その1	
14	第14回 調査票(案)作成等 その2	
15	第15回 調査票(案)作成等 その3	

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

社会調査士ルームを効果的に利用しながら作業を進めることが期待される。また必要に応じて調査フィールドにおもむき情報収集を行う。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	フィールドでのインフォーマントからの聞き取り、仮説構築、質問紙作成など、授業の進行に応じてさまざまな文書を作成する必要があるが、それらが取っ手いえばレポートであり評価の対象物である。
日常点・その他	50 %	小テストなどは行わない。広義の調査活動全般が日常点としての評価対象となる。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

社会調査士の先輩たちが作成した調査報告書がテキストである。それらをよく読んで長所を学び、欠点を補うにはどうするかを考えてほしい。

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

担当者名 / Instructor 辻 勝次

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

「社会調査士」および「社会調査士」は社会調査士課程の中核をなす科目であり、フィールド実習を中心に、連続して通年で開講する。この科目は2回生の前期夏休みまでの間に調査主題、フィールド、仮説構築、調査票作成、サンプリングと配布、回収から準備的なデータ入力・解析までを行う。これに続いて2回生後期には本格的なデータ入力・解析から報告書の執筆完成へと進んでいく。

担当者は家族、地域、労働を総合的に観察することのできる調査主題とフィールドについて腹案を持っているが、重要なことなので、開講時に受講生に直接説明することにした。

## 到達目標 / Attainment Objectives

社会学の社会調査の主題は日常の人びとの生活であり、暮らしである。ある人は家族の一員であり、家族は収入源としての職業、労働活動を行っている。同時にその家族は地域社会に根ざした地域生活を送っている。家族、地域、労働という3つの領域が重なることで人びとの暮らしが成り立っている。その様相を調査を通して把握し、人間と社会を理解することがこの科目の目的である。その途上で社会調査のスキルが自ずから身につくことになろう。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

この科目は、社会調査士課程に登録し「社会調査士」「社会調査士」を受講済みであることが条件である。また「社会統計学」や「社会調査論」などの関連科目をひととおり受講済みであることが望ましい。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	第1回 調査結果の整理と確認 その1	
2	第2回 調査結果の整理と確認 その2	
3	第3回 データの作成 データ入力、アフターコーディング、テープおこし、記録の整理等 その1	
4	第4回 データの作成 データ入力、アフターコーディング、テープおこし、記録の整理等 その2	
5	第5回 データの作成 データ入力、アフターコーディング、テープおこし、記録の整理等 その	
6	第6回 データクリーニング、分析案の検討 その1	
7	第7回 データクリーニング、分析案の検討 その2	
8	第8回 面接による補足調査 その1	
9	第9回 面接による補足調査 その2	
10	第10回 データ解析作業 その1	
11	第11回 中間報告会	
12	第12回 データ解析作業 その2	
13	第13回 データ解析作業 その3	
14	第14回 調査報告書の作成、編集 その1	
15	第15回 調査報告書の作成、編集 その2	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

社会調査士ルームを効果的に利用しながら作業を進めることが期待される。また必要に応じて調査フィールドにおもむき情報収集を行う。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	フィールドでのインフォーマントからの聞き取り、仮説構築、質問紙作成など、授業の進行に応じてさまざまな文書を作成する必要があるが、それらが取っていえばレポートであり評価の対象物である。
日常点・その他	50 %	小テストなどは行わない。広義の調査活動全般が日常点としての評価対象となる。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

社会調査士の先輩たちが作成した調査報告書がテキストである。それらをよく読んで長所を学び、欠点を補うにはどうするかを考えてほしい。

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference



担当者名 / Instructor 石倉 康次

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

「社会調査士」および「社会調査士」は社会調査士課程の中核をなす科目であり、フィールド実習を中心に、連続して通年で開講する。この科目は2回生の前期夏休みまでの間に調査主題、フィールド、仮説構築、調査票作成、サンプリングと配布、回収から準備的なデータ入力・解析までを行う。これに続いて2回生後期には本格的なデータ入力・解析から報告書の執筆完成へと進んでいく。

担当者は家族、地域、労働を総合的に観察することのできる調査主題とフィールドについて腹案を持っているが、重要なことなので、開講時に受講生に直接説明することにした。

## 到達目標 / Attainment Objectives

社会学の社会調査の主題は日常の人びとの生活であり、暮らしである。ある人は家族の一員であり、家族は収入源としての職業、労働活動を行っている。同時にその家族は地域社会に根ざした地域生活を送っている。家族、地域、労働という3つの領域が重なることで人びとの暮らしが成り立っている。その様相を調査を通して把握し、人間と社会を理解することがこの科目の目的である。その途上で社会調査のスキルが自ずから身につくことになろう。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

この科目は、社会調査士課程に登録し「社会調査士」「社会調査士」を受講済みであることが条件である。また「社会統計学」や「社会調査論」などの関連科目をひととおり受講済みであることが望ましい。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	第1回 調査結果の整理と確認 その1	
2	第2回 調査結果の整理と確認 その2	
3	第3回 データの作成 データ入力、アフターコーディング、テープおこし、記録の整理等 その1	
4	第4回 データの作成 データ入力、アフターコーディング、テープおこし、記録の整理等 その2	
5	第5回 データの作成 データ入力、アフターコーディング、テープおこし、記録の整理等 その3	
6	第6回 データクリーニング、分析案の検討 その1	
7	第7回 データクリーニング、分析案の検討 その2	
8	第8回 面接による補足調査 その1	
9	第9回 面接による補足調査 その2	
10	第10回 データ解析作業 その1	
11	第11回 中間報告会	
12	第12回 データ解析作業 その2	
13	第13回 データ解析作業 その3	
14	第14回 調査報告書の作成、編集 その1	
15	第15回 調査報告書の作成、編集 その2	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

社会調査士ルームを効果的に利用しながら作業を進めることが期待される。また必要に応じて調査フィールドにおもむき情報収集を行う。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	フィールドでのインフォーマントからの聞き取り、仮説構築、質問紙作成など、授業の進行に応じてさまざまな文書を作成する必要があるが、それらが取っていればレポートであり評価の対象物である。
日常点・その他	50 %	小テストなどは行わない。広義の調査活動全般が日常点としての評価対象となる。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

社会調査士の先輩たちが作成した調査報告書がテキストである。それらをよく読んで長所を学び、欠点を補うにはどうするかを考えてほしい。

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference



担当者名 / Instructor 筒井 淳也

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

「社会調査士」および「社会調査士」は社会調査士課程の中核をなす科目であり、フィールド実習を中心に、連続して通年で開講する。この科目は2回生の前期夏休みまでの間に調査主題、フィールド、仮説構築、調査票作成、サンプリングと配布、回収から準備的なデータ入力・解析までを行う。これに続いて2回生後期には本格的なデータ入力・解析から報告書の執筆完成へと進んでいく。

担当者は家族、地域、労働を総合的に観察することのできる調査主題とフィールドについて腹案を持っているが、重要なことなので、開講時に受講生に直接説明することにした。

## 到達目標 / Attainment Objectives

社会学の社会調査の主題は日常の人びとの生活であり、暮らしである。ある人は家族の一員であり、家族は収入源としての職業、労働活動を行っている。同時にその家族は地域社会に根ざした地域生活を送っている。家族、地域、労働という3つの領域が重なることで人びとの暮らしが成り立っている。その様相を調査を通して把握し、人間と社会を理解することがこの科目の目的である。その途上で社会調査のスキルが自ずから身につくことになろう。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

この科目は、社会調査士課程に登録し「社会調査士」「社会調査士」を受講済みであることが条件である。また「社会統計学」や「社会調査論」などの関連科目をひととおり受講済みであることが望ましい。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	第1回 調査結果の整理と確認 その1	
2	第2回 調査結果の整理と確認 その2	
3	第3回 データの作成 データ入力、アフターコーディング、テープおこし、記録の整理等 その1	
4	第4回 データの作成 データ入力、アフターコーディング、テープおこし、記録の整理等 その2	
5	第5回 データの作成 データ入力、アフターコーディング、テープおこし、記録の整理等 その	
6	第6回 データクリーニング、分析案の検討 その1	
7	第7回 データクリーニング、分析案の検討 その2	
8	第8回 面接による補足調査 その1	
9	第9回 面接による補足調査 その2	
10	第10回 データ解析作業 その1	
11	第11回 中間報告会	
12	第12回 データ解析作業 その2	
13	第13回 データ解析作業 その3	
14	第14回 調査報告書の作成、編集 その1	
15	第15回 調査報告書の作成、編集 その2	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

社会調査士ルームを効果的に利用しながら作業を進めることが期待される。また必要に応じて調査フィールドにおもむき情報収集を行う。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	フィールドでのインフォーマントからの聞き取り、仮説構築、質問紙作成など、授業の進行に応じてさまざまな文書を作成する必要があるが、それらが取っていえばレポートであり評価の対象物である。
日常点・その他	50 %	小テストなどは行わない。広義の調査活動全般が日常点としての評価対象となる。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

社会調査士の先輩たちが作成した調査報告書がテキストである。それらをよく読んで長所を学び、欠点を補うにはどうするかを考えてほしい。

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference



担当者名 / Instructor 齋藤 真緒

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

「社会調査士」および「社会調査士」は社会調査士課程の中核をなす科目であり、フィールド実習を中心に、連続して通年で開講する。この科目は2回生の前期夏休みまでの間に調査主題、フィールド、仮説構築、調査票作成、サンプリングと配布、回収から準備的なデータ入力・解析までを行う。これに続いて2回生後期には本格的なデータ入力・解析から報告書の執筆完成へと進んでいく。

担当者は家族、地域、労働を総合的に観察することのできる調査主題とフィールドについて腹案を持っているが、重要なことなので、開講時に受講生に直接説明することにした。

## 到達目標 / Attainment Objectives

社会学の社会調査の主題は日常の人びとの生活であり、暮らしである。ある人は家族の一員であり、家族は収入源としての職業、労働活動を行っている。同時にその家族は地域社会に根ざした地域生活を送っている。家族、地域、労働という3つの領域が重なることで人びとの暮らしが成り立っている。その様相を調査を通して把握し、人間と社会を理解することがこの科目の目的である。その途上で社会調査のスキルが自ずから身につくことになろう。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

この科目は、社会調査士課程に登録し「社会調査士」「社会調査士」を受講済みであることが条件である。また「社会統計学」や「社会調査論」などの関連科目をひととおり受講済みであることが望ましい。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	第1回 調査結果の整理と確認 その1	
2	第2回 調査結果の整理と確認 その2	
3	第3回 データの作成 データ入力、アフターコーディング、テープおこし、記録の整理等 その1	
4	第4回 データの作成 データ入力、アフターコーディング、テープおこし、記録の整理等 その2	
5	第5回 データの作成 データ入力、アフターコーディング、テープおこし、記録の整理等 その	
6	第6回 データクリーニング、分析案の検討 その1	
7	第7回 データクリーニング、分析案の検討 その2	
8	第8回 面接による補足調査 その1	
9	第9回 面接による補足調査 その2	
10	第10回 データ解析作業 その1	
11	第11回 中間報告会	
12	第12回 データ解析作業 その2	
13	第13回 データ解析作業 その3	
14	第14回 調査報告書の作成、編集 その1	
15	第15回 調査報告書の作成、編集 その2	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

社会調査士ルームを効果的に利用しながら作業を進めることが期待される。また必要に応じて調査フィールドにおもむき情報収集を行う。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	フィールドでのインフォーマントからの聞き取り、仮説構築、質問紙作成など、授業の進行に応じてさまざまな文書を作成する必要があるが、それらが取っていえばレポートであり評価の対象物である。
日常点・その他	50 %	小テストなどは行わない。広義の調査活動全般が日常点としての評価対象となる。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

社会調査士の先輩たちが作成した調査報告書がテキストである。それらをよく読んで長所を学び、欠点を補うにはどうするかを考えてほしい。

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

